

## Ⅱ 乳幼児をもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅱ-11

プログラム名：たっぷり愛して、しっかり認めよう～子どもの自己肯定感を育む関わり方～

対象：乳幼児をもつ保護者

時間：60分程度

ねらい	多少困難な場面に子どもが直面してもそのなりに乗り越えられるよう、自己肯定感が高まる適切な親子の関わり方について考え、わが子とよりよく関わっていこうと再認識する。		
実施のポイント (評価など)	○ これまでのわが子との関わり方を振り返ったり、子どもの立場を体験したりすることで、わが子の自己肯定感が高められるような子どもへの関わり方について考える。		
事前準備	○ あらかじめ4人のグループに分かれておく(偶数がよい)。 ○ 時計 ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ 名札(付せん紙でもよい) ○ 資料		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 10分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク(自己紹介)	・自己紹介では、最近わが子を褒めた場面を紹介し、ワークへつなげる。	
展開 10分	●ワーク1 ・チェックシートをもとにわが子との関わり方を振り返る。	◎「チェックシート」をもとに、わが子との関わり方を振り返ることをねらいとする。 ・参加者が“褒めてない”“できていない”と思いつめないように配慮しながら、感想を交流する時間を確保する。	ワークシート
	25分 ●ワーク2 ・役割演技をとおして、自己肯定感を高められるようなよりよい関わり方を考える。	◎いくつかのエピソードをもとにした役割演技を行い、体験して感じたことを実生活に生かせるようにすることをねらいとする。 ・些細なことでも褒めることの大切さに気づけるよう、身近に起こりそうなエピソードを取り上げる。 ・役割演技を体験した感想を共有する。特に、エピソード①については、声のかけ方によって親子の関係にも影響することにつながる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     &lt;各エピソードのねらい&gt;                      【エピソード①】                      2つのパターンを比べ、子どもの考えを聞く関わり方の大切さを知る。                      【エピソード②】                      エピソード①をふまえ、よりよい関わり方を考える。                      【エピソード③】                      ゆっくり子どもの話が聞けない時に、どのように関わったらよいか考える。                 </div> ※時間に応じてエピソード②・③はどちらか1つに絞ってもよい。 ・グループ内で役割を交代したり、全体で披露したりすることで、関わり方の答えはひとつではないと気づくことができるようにする。 ・関わり方の例として、次のようなものも必要に応じて紹介する。 * 「ありがとう」「がんばってるね」 * (褒めることが難しい場面(忙しい時など)では)子どもの話をしっかり聞くこと 子どもの話をくり返す ◎資料をとおして、自己肯定感の定義や自己肯定感を育む方法について知り、自己肯定感が高いと少しの困難でも乗り越えられる力をもつことができるということに気づけるようにする。 (資料は、参加者に合わせて選択してもよい)	ワークシート
5分	○資料紹介	◎資料をとおして、自己肯定感の定義や自己肯定感を育む方法について知り、自己肯定感が高いと少しの困難でも乗り越えられる力をもつことができるということに気づけるようにする。 (資料は、参加者に合わせて選択してもよい)	資料
まとめ 10分	●ふりかえり・まとめ	◎具体的な場面を想定しながら、今後の子育てでどのように関わっていくか共有することをねらいとする。 ・グループで共有したことを全体でも共有する。 ・今後の子育てに生かせるよう、ふりかえりシートに記入し、関わり方に悩んだら、一人で悩まず助けを求めるよう伝える。	ワークシート

